



インド北部に位置するラダック。中国の文化大革命によりチベット自治区（本土）の仏教文化が破壊されてきた歴史に比べ、チベット文化が最も継承されていることから、小チベットとも称される。チベット文化を担うのが「ゴンパ」と呼ばれる僧院で、ラダックの人々にとって僧侶は、尊敬される存在であり心のよりどころでもある。各家庭から一人、僧侶か尼僧を出すのがこの地のしきたりになっている。

それぞれのゴンパではチベット暦に沿って、年に一度の大祭が執り行われる。冬のラダックを旅した際に偶然、岩山の中腹にまるで砦のように建立されたチエムレ僧院で、「アンチョック祭」に出会った。境内に入ると、すでに僧院の屋根の上まで参拝者がぎっしりと詰めかけており、仮面を着けた僧侶による舞いが次々に披露されていた。

さまざまな仮面が登場するため、物語の意味が分からなくても楽しい。日本の祭りと同じく五穀豊穡や無病息災を祈願する意味合いも持っているせいか、なんとなく日本の田舎の祭りに参列しているような感じがした。

2010年は11月4、5日にかけて行われる。

春 夏
秋 冬

26

11月 アンチョック祭

ヒマラヤの 仮面舞踏会



文・写真=船尾 修

1960年兵庫県出身。アジア・アフリカをフィールドに「地球と人間の関係性」に関する写真作品を制作している。「カミサマホトケサマ」で第9回さがみはら写真新人奨励賞受賞。